

## 平成 29 年度 2 学期終業式 式辞

本日をもって2学期の終業となります。

2学期は行事がたくさんあり、充実の日々だった印象が強いですね。

さて、毎年秋には私が楽しみにしている報告書が出ますので、続けて手に入れております。それは、文化庁文化語部国語課によるその年度の『国語に関する世論調査』のまとめです。昨年も、いつの機会だったか忘れてしまいましたが、『ラ抜き言葉』の普及についてみなさんにお話しした記憶があります。2月に調査したものを集計して9～10月に発刊されているのですが、ここ5年間は『コミュニケーション』に焦点をあてた調査が続いているのです。現在の社会状況を物語っているのかなあーと勝手に納得しています。コミュニケーション不足に起因するトラブルが、学校だけでなく職場や社会全体には実に多くあるように感じますからね。

調査は、いきなりこんな質問から始まります。「社会生活においてはコミュニケーション能力が重要だと思いますか？」答えは、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計して96.4%という高い値が記録されました。では「コミュニケーション能力とはどのようなものですか？」に対し、「話す、聞く、書く、読む、など言葉に関する能力」という答えと「いろいろな力が組み合わせ合わせたもので、言葉に関する能力が含まれる」という答え、「相手や場面、状況などによって変化するもので一概には言えない」の3つの答えが各30%余りの割合で並んでいました。コミュニケーションとは、「言葉、文字などによって、互いに思想・意思などを伝達交換すること」をいいますから複合的な能力を必要とするものなのです。

そこで次の質問になります。「あなたは社会生活を送っていく上で、どのような言葉に関わる知識や能力などがこれから必要であると思いますか？」の問いに対し、複数回答の上位5位を挙げましょう。①「説明したり発表したりする能力」②「相手や場面を認識する能力」③「論理的に考える能力」④「分析して要点をつかむ能力」⑤「言葉で人間関係を形成しようとする意欲」の順です。なるほど、自らの能力を高める努力に加え、状況を把握して対人関係を良好に保とうとする意欲も求められていることが明らかになりました。

コミュニケーションには様々な方法がありますが、あなたは最も親しい人に自分の意見を述べる場合、「自分の本音を伝えやすいと感じる手段・方法は何ですか？」の問いには、90%以上という高い値で「直接会っての会話」があげられました。反対に、「誤解やトラブルを招きやすい手段・方法は何だと思えますか？」の問いには「SNSやブログでのメッセージ」が44.1%、「携帯やスマ

ホヤパソコン等でのメール」が43.5%で、この2つが誤解やトラブルの危険性をはらむ手段や方法だとの傾向が指摘されました。

さあ冬休みに入ります。普段学校で顔を合わせて直接会話できる友人と、ツイッターやラインでやりとりする機会が増える時期だとも言えます。今ご紹介した調査の結果を参考に、これらをできるだけ控え、会って話すようにしましょう。また来年やお正月には久しぶりにお会いするご親戚の方々も多いことでしょう。目上の方々との会話など、コミュニケーション能力を磨く機会でもあります。敬語や丁寧語を含め言葉遣いに気を配り、言葉に関する能力を高める会話に励んでください。

元気な顔で1月9日始業式に再会しましょう。以上をもって式辞とします。よいお年をお迎えください。

2017(平成29)年 12月20日 相愛中学校・高等学校  
学校長 安井 大悟